

VI 飼料作物

1. アカクローバ

- (1) クラノ（系統名 KRANO）1998年
登録番号：（北海道）アカクローバ準輸第9号

セールスポイント

2 番草の草勢が穏やかで、再生時にチモシーの生育を抑圧せず、混播適性に優れた晩生品種である。

来歴 本品種は、デンマークのDLF TRIFOLIUM A/S 社が「Bora」×「Monark」の後代から育成した2 倍体品種である。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1995年から各種の試験を行い、1998年に優良品種となった。

特性概要

- 1 番草の開花始は「ホクセキ」より3 週間以上遅く、晩生である。「アルタスウェード」との比較ではやや早生である。
- 小葉の大きさは「ホクセキ」及び「アルタスウェード」より大きい。草丈は「ホクセキ」より低く、「アルタスウェード」よりやや高い。

3. チモシーとの混播適性は、「ホクセキ」に比べ、チモシーの被度を高く維持し、裸地が少なく、優れている。また、チモシーとの競合力はマメ科率と被度からみて、「ホクセキ」より弱く、「アルタスウェード」より強い。

4. 越冬性は「ホクセキ」並である。
5. 収量性は「ホクセキ」より低く、「アルタスウェード」より高い。
6. 耐倒伏性は「ホクセキ」より強く、「アルタスウェード」よりやや弱い。また、さび病、うどんこ病、輪紋病に対する耐病性は「ホクセキ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。主として、チモシー中生品種との組合せで利用する。なお、チモシー早生品種との組合せでは、競合力の穏やかな品種として利用できる。

北海道一円に適する。主として、チモシー中生品種との組合せで利用する。なお、チモシー早生品種との組合せでは、競合力の穏やかな品種として利用できる。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3 ヶ年合計乾物収量の		乾物中マメ科率(2 - 3 年平均, %)				試験年次
	1 年目	2 年目	3 年目	合 計	ホクセキ 比 (%)	アルタス ウェード比 (%)	1 番草		2 番草		
							クラノ	ホクセキ	クラノ	ホクセキ	
北海道農試	86	1238	1238	2594	105	112	29	30	49	65	1995～1997
北 見 農 試	463	1016	1098	2560	82	100	36	38	30	58	
根 釧 農 試 1	474	1126	1041	2641	94	102	35	36	19	44	
根 釧 農 試 2	573	1053	957	2584	98	104	31	29	29	40	
天 北 農 試	264	870	851	1983	98	104	19	24	13	29	
新 得 畜 試	421	1033	1073	2538	97	104	23	26	8	24	
滝 川 畜 試	313	1210	1188	2773	98	107	25	33	12	37	
全 平 均	374	1082	1067	2541	96	104	28	31	23	43	

注) 根釧農試2 はチモシー「ノサップ」との混播で、他は全てチモシー「キリタツプ」との混播の乾物収量。

参照 1) 北海道農政部編, 平成10年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35 (1998).

- (2) ナツユウ（系統名 北海9号）2001年
登録番号：（北海道）クローバ類北海道第7号
（農水省）アカクローバ農林5号
（種苗法）第12308号

セールスポイント

越冬性、永続性に優れ、既存のアカクローバ早生品種の中では競合力が小さく、混播適性に優れた品種である。

来歴 本品種は、チモシーとの混播適性に優れ、越冬性、永続性及び収量性を兼ね備えた品種の育成を目標に、1980年に農林水産省北海道農業試験場（以下、北農試）で養成した基礎集団から、母系選抜法により2 サイクルの個体選抜を経て選抜した10母系を、1992年より北農試と北海道立根釧農業試験場で生産力を検定し、4 母系を選抜し、これに北農試で菌核病菌を接種・選抜した個体から育成した2 倍体品種である。1998年から「北海9号」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 1 番草の開花始は「ホクセキ」並であり、早生である。「ホクセキ」に比べ 2 番草の開花程度がやや小さく、「クラノ」より開花程度は大きい。
2. チモシーとの競合力は「ホクセキ」より小さく、「クラノ」より大きい。チモシーとの混播適性は、「ホクセキ」に比べ、チモシー収量が高く、マメ科率は低く推移するため、優れる。
3. 耐寒性は「ホクセキ」を中としてやや強である。萌芽良否、早春草勢は「ホクセキ」並かやや優れ、「クラノ」より優れ、越冬性は「ホクセキ」、「クラノ」より優れる。また、永続性は「ホクセキ」並で、「クラ

ノ」より優れる。

4. 乾物収量は「ホクセキ」並で、「クラノ」との比較ではやや高い。
5. うどんこ病には「ホクセキ」よりやや強く、「クラノ」より強い。菌核病には「ホクセキ」並かやや強く、黒葉枯病には「ホクセキ」並かやや弱い。その他の病害は「ホクセキ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。チモシーの植生維持を優先する場合において、チモシーの早生から中生品種に対し、競合力の穏やかな早生品種として利用する。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3 ヶ年合計乾物収量の		乾物中マメ科率(2-3年平均, %)				試験年次
	1 年目	2 年目	3 年目	合計	ホクセキ 比(%)	クラノ 比(%)	1 番草		2 番草		
							ナツユウ	ホクセキ	ナツユウ	ホクセキ	
北海道農試1	480	1104	1020	2442	99	113	38	37	55	60	1998～2000
北海道農試2	474	1302	1162	2930	100	100	49	47	54	62	
北見農試1	432	1080	1110	2627	95	103	54	67	50	69	
北見農試2	474	1202	1198	2867	98	103	51	63	57	68	
根 釧 農 試	209	761	956	1920	96	103	32	41	61	67	
天 北 農 試	220	932	949	2109	102	113	57	46	64	64	
道 立 畜 試	573	1152	935	2654	101	98	49	49	39	50	
全 平 均	409	1076	1047	2507	99	105	47	50	54	63	

注) 乾物収量は、北農試2 および北見農試2 はチモシー「キリタツ」との混播で、他は全てチモシー「ノサップ」との混播。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 37-39 (2001).
2) 磯部祥子 等, 北海道農研研報, 177, 1-14(2002).

2. シロクローバ

- (1) ルナメイ (系統名 LUNE DE MAI) 1996年
登録番号: (北海道) シロクローバ準輪第3号

セールスポイント

大葉型で、シロクローバ率の変動が小さく、越冬性が優れる、採草・放牧用の晩生品種である。

来歴 本品種は、フランスのINRAで大葉型の品種及び育成系統から選抜した20親栄養系を用いて合成品種法により育成された。雪印種苗株式会社が導入し、1993年から各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 1 番草の開花始は晩生～極晩生の「カリフォルニアラジノ」より2日早い晩生である。開花程度は「カリフォルニアラジノ」に比べ、春季が多く、夏季及び秋

季は少ない。

2. 「カリフォルニアラジノ」に比べて、小葉の大きさは同等かやや小さい大葉型で、草丈はやや低い。ほふく茎の密度はやや高い。
3. オーチャードグラスとの混播適性は、「カリフォルニアラジノ」に比べて、シロクローバ割合の年次間及び番草間の変動が小さく、やや優れている。また、オーチャードグラスとの競合力は同程度である。
4. 越冬性は「カリフォルニアラジノ」より優れている。
5. 収量性は単播条件および混播条件とも「カリフォルニアラジノ」とほぼ同程度である。
6. 「カリフォルニアラジノ」に比べて、そばかす病耐病性はほぼ同程度、菌核病にはやや強い。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。採草・放牧用として、イネ科牧

草との混播で利用する。ただし、大葉型に属するので、
地域によっては混播イネ科草種・品種との組合せに留意

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3 ヶ年合計のカリ フォルニアラジノ 比(%)	シロクローバ割合(%)		同左標準偏差		試験年次
	1 年目	2 年目	3 年目	合計		ルナメイ	カリフォル ニアラジノ	ルナメイ	カリフォル ニアラジノ	
北海道農試	340	1019	705	2065	107	39	38	11	18	1993～1995
北見農試	636	727	505	1867	99	34	37	11	13	
根釧農試	283	588	557	1428	98	32	35	13	15	
天北農試	140	789	790	1715	100	41	38	11	12	
新得畜試	290	682	525	1497	99	28	30	8	9	
滝川畜試	516	698	802	2016	97	16	15	14	12	
全平均	368	751	647	1765	100					

注) オーチャードグラスとの混播の乾物総収量。

シロクローバ割合のデータは3 ヶ年平均値、標準偏差は全番草のシロクローバ割合の標準偏差。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42 (1996)。

(2) ラモーナ (系統名 WWV-14) 1996年

登録番号: (北海道) シロクローバ準輸第4号

セールスポイント

中葉型で「ソーニヤ」とほぼ同程度の能力を有する、
採草・放牧用の中生品種である。

来歴 本品種は、スウェーデンのSvalof Weibull AB
社で中葉型品種「ソーニヤ」から採種性について選抜し
た、200個体により集団選抜法で育成された。三井東圧
化学株式会社が入社し、1993年から各種の試験を行い、
1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 1 番草の開花始は「ソーニヤ」より1日遅く、中生
の「フィア」に比べて1日早い中生である。開花程度
は、「ソーニヤ」と比べて春季がやや少なく、夏季及

び秋季はほぼ同程度である。

2. 小葉の大きさは「ソーニヤ」とほぼ同等の中葉型で
ある。草丈は「ソーニヤ」並で、ほふく茎の密度は
「ソーニヤ」並かやや低い。
3. チモシーとの混播適性及び競合力は「ソーニヤ」と
同程度で、オーチャードグラスとの混播適性は「ソー
ニヤ」並かやや優れ、オーチャードグラスに対する競
合力は同等かやや弱い。
4. 越冬性は「ソーニヤ」並である。
5. 収量性は単播条件及び、チモシーまたはオーチャード
グラスとの混播条件でも「ソーニヤ」並かやや優れる。
6. そばかす病及び菌核病に対する耐病性は「ソーニヤ」
並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。採草・放牧用として、イネ科牧
草との混播で利用する。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3 ヶ年合計の ソーニヤ比 (%)	シロクローバ割合(%)		同左標準偏差		試験年次
	1 年目	2 年目	3 年目	合計		ラモーナ	ソーニヤ	ラモーナ	ソーニヤ	
北見農試	593	911	567	2071	109	45	42	13	18	1993～1995
根釧農試	274	691	607	1572	99	41	36	14	14	
新得畜試	363	628	419	1410	103	61	60	16	17	
北海道農試	319	888	488	1695	110	25	22	13	15	1993～1995
天北農試	144	795	758	1692	103	35	35	10	12	
滝川畜試	578	665	719	1962	100	8	11	6	7	
全平均	379	763	593	1734	104					

注) 北見、根釧農試および新得畜試はチモシー、北農試、天北農試および滝川畜試はオーチャードグラスとの混播の乾物総収量。

シロクローバ割合のデータは3 ヶ年平均値、標準偏差は全番草のシロクローバ割合の標準偏差。

参照 1) 北海道農政部編, 平成8年普及奨励ならびに指導参考事項, 43-45 (1996)。

(3) **リベンデル**（系統名 RIVENDEL）1996年
登録番号：（北海道）シロクロバ準輪第5号

セールスポイント

小葉型で、競合力が穏やかな放牧用の中生品種である。

来歴 本品種は、デンマークのDansk Planteformaedling A/S社で、集団選抜法で育成された。雪印種苗株式会社が導入し、1993年から各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「ソーニヤ」より1～2日遅く、中生の「フィア」に比べて1日早い中生である。開花程度は、「ソーニヤ」と比べて、春季および秋季ではほぼ同等であるが、夏季ではやや多い。
2. 小葉の大きさは「ソーニヤ」より小さい小葉型で、草丈は「ソーニヤ」より低い。ほふく茎の密度は「ソー

ニヤ」とほぼ同等である。

3. チモシーに対する競合力は弱く、チモシーを抑圧することなく、チモシーとの混播適性は「ソーニヤ」より優れる。オーチャードグラスに対する競合力は「ソーニヤ」よりやや弱く、オーチャードグラスに抑圧される傾向があり、オーチャードグラスとの混播適性は「ソーニヤ」より劣る。
4. 越冬性は「ソーニヤ」並である。
5. 収量性は、単播条件では「ソーニヤ」よりやや優る。チモシーとの混播条件では「ソーニヤ」より劣り、オーチャードグラスとの混播条件では「ソーニヤ」とほぼ同等である。
6. そばかす病及び菌核病に対する耐病性は「ソーニヤ」並である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。放牧用として、チモシーとの混播で利用する。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3ヵ年合計のソーニヤ比(%)	シロクロバ割合(%)		同左標準偏差		試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計		リベンデル	ソーニヤ	リベンデル	ソーニヤ	
北見農試	512	859	454	1824	96	32	42	16	18	1993～1995
根釧農試	226	623	514	1363	86	28	36	12	14	
新得畜試	336	587	469	1391	102	34	60	8	17	
北海道農試	300	841	440	1582	102	13	22	11	15	1993～1995
天北農試	127	775	709	1609	98	30	35	15	12	
滝川畜試	560	660	663	1883	96	6	11	4	7	
全平均	344	724	542	1609	96					

注) 北見、根釧農試および新得畜試はチモシー、北農試、天北農試および滝川畜試はオーチャードグラスとの混播の乾物総収量。シロクロバ割合のデータは3ヵ年平均値、標準偏差は全番草のシロクロバ割合の標準偏差。

参照 1) 北海道農政部編、平成8年普及奨励ならびに指導参考事項、46～48（1996）。

(4) **タホラ**（系統名 TAHORA）1996年
登録番号：（北海道）シロクロバ準輪第6号

セールスポイント

小葉型で、競合力が穏やかな放牧用の中生品種である。

来歴 本品種は、ニュージーランドのAgResearch Grasslandsで丘陵地帯の残存株から、永続性・収量性及び、ほふく茎密度について選抜した個体から集団選抜法により育成された。ホクレン農業協同組合連合会が導入し、1993年から各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「ソーニヤ」より1日遅く、中生の「フィア」に比べて1～2日早い中生である。開花程度は、「ソーニヤ」と比べて、春季では少なく、夏季および秋季ではやや少ない。
2. 小葉の大きさは「ソーニヤ」より小さい小葉型で、草丈は「ソーニヤ」より低い。ほふく茎の密度は「ソーニヤ」とほぼ同等かやや高い。
3. チモシーに対する競合力は「ソーニヤ」より弱く、チモシーを抑圧することがない。チモシーとの混播適性は「ソーニヤ」より優れる。オーチャードグラスに対する競合力は「ソーニヤ」とほぼ同等である。オーチャードグラスとの混播適性は「ソーニヤ」とほぼ同等から

やや劣る。

4. 越冬性は「ソーニヤ」とほぼ同等である。

5. 収量性は単播条件で「ソーニヤ」よりやや優る。チモシーとの混播条件における収量性は「ソーニヤ」よりやや劣るが、オーチャードグラスとの混播条件における収量性は「ソーニヤ」とほぼ同等である。

6. そばかす病および菌核病耐病性ともに「ソーニヤ」とほぼ同様である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適する。放牧用として、チモシーとの混播で利用する。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3 ヶ年合計のソーニヤ比(%)	シロクロバ割合(%)		同左標準偏差		試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計		タホラ	ソーニヤ	タホラ	ソーニヤ	
北見農試	515	833	476	1824	96	35	42	14	18	1993～1995
根釧農試	251	648	491	1390	87	26	36	15	14	
新得畜試	346	601	506	1452	106	46	60	16	17	
北海道農試	277	867	465	1608	104	16	22	12	15	1993～1995
天北農試	122	722	748	1589	97	27	35	11	12	
滝川畜試	550	666	730	1946	99	7	11	5	7	
全平均	344	723	569	1635	98					

注) 北見、根釧農試および新得畜試はチモシー、北農試、天北農試および滝川畜試はオーチャードグラスとの混播の乾物総収量。シロクロバ割合のデータは3 ヶ年平均値、標準偏差は全番草のシロクロバ割合の標準偏差。

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，49～51（1996）。

3. アルファルファ

(1) ハルワカバ（系統名 北海3号）2003年

登録番号：(北海道) アルファルファ北海道第6号
(農水省) アルファルファ農林8号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

寒地適応型の特性を示し、永続性、越冬性および収量性に優れる品種である。

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場において、永続性、越冬性及び収量性に優れる品種の育成を目標に集団選抜法により育成された品種である。1997年に「月系2号」由来の個体から、萌芽が良好で越冬性に優れる48個体を選抜し、増殖一代系統を造成し、1999年から「北海3号」の系統名で各種の試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は「マキワカバ」とほぼ同時期の早生に属する。
2. 「マキワカバ」に比較して、草型が開帳型で、秋の草勢が劣り、雑色花の割合が高く、側根の割合が大き

い。また、秋の休眠性が高く、寒地適応性の特徴が強い。

3. 永続性は既存品種中最も優れる。

4. 越冬性、萌芽良否および春の草勢の評価はいずれも「マキワカバ」より優れ、耐寒性も「マキワカバ」の中に対し、中～やや強である。既存品種中最も越冬性に優れる。

5. 収量性は「マキワカバ」に比べ105%と多収を示し、特に3～4年目の多収傾向が顕著である。既存品種中最も多収である。

6. 倒伏程度は草型が開帳型であるため、「マキワカバ」より大きく評価される。

7. そばかす病およびいば斑点病の耐病性は「マキワカバ」並みで高い。パーティシリウム萎ちょう病に対しては抵抗性である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適し、特にこれまでアルファルファの安定栽培が難しかったところでも栽培の安定化が図られる。開帳型のため倒伏程度は大きく評価されるが耐倒伏性は実用レベルである。刈遅れに注意する。

試験場名	年間乾物収量										試験年次
	1 年目		2 年目		3 年目		4 年目		合計		
	ハルワカバ	マキワカバ	ハルワカバ	マキワカバ	ハルワカバ	マキワカバ	ハルワカバ	マキワカバ	ハルワカバ	マキワカバ	
北 農 研	102	608	109	1033	101	1181	104	1272	104	4094	1999～2002
北見農試	103	466	94	977	100	799	106	781	100	3013	
根釧農試	108	153	106	531	128	579	104	811	111	2074	
天北農試	101	275	107	954	116	787	111	917	110	2923	
道立畜試	93	149	96	970	104	742	110	774	102	2636	
全 平 均	101	330	102	893	110	818	107	911	105	2948	

注)「マキワカバ」は実収量 (kg/10a),「ハルワカバ」は「マキワカバ」対比 (%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成15年普及奨励ならびに指導参考事項, 22-24 (2003).

4. ガレガ

(1) こまさと184 (系統名 Gale) 2002年
登録番号: (北海道) ガレガ準輪交第1号

セールスポイント

地下茎で増殖し, 永続性が高く, アルファルファに比べて栄養価の低下が緩慢な, 新草種ガレガの唯一の品種である。

来歴 本品種は, 1988年にエストニア農業試験研究所で集団選抜法により育成された, アルカロイドを含まない *Galega orientalis* Lam. 種の唯一の品種である。ホクレン農業協同組合連合会が導入し, 1999年から各種試験を行い, 2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 1番草の開花始は早生のアルファルファ「マキワカバ」に比べ8日早い。
2. 「マキワカバ」に比べ, 初期生育および再生は緩慢である。
3. チモシーとの混播条件では, 造成後のマメ科率が低く維持され, 徐々に増加するため, チモシーのスタン드의確保が容易で, 混播適性に優れる。

4. 地下茎を発生して増殖し, 永続性は「マキワカバ」およびアカクロバ「ホクセキ」より優れる。
5. 萌芽は「マキワカバ」より3日早く, 越冬性は「マキワカバ」より優れる。
6. 乾物収量は「マキワカバ」より少ない。
7. 耐倒伏性は「マキワカバ」に比べて優れている。また, 顕著な病害は発生していない。
8. 「マキワカバ」に比べて, 1番草の生育の進行に伴う品質の低下が少ない。また, 開花始期以降では粗蛋白割合が高い。サイレージの発酵品質および家畜の摂取量は「マキワカバ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道一円に適するが, 気象条件が比較的良好な地域からチモシーとの混播で普及を図り, 根釧地域等への普及は定着率を高める栽培法の確立を進めながら行う。

9月から10月上旬の刈取りが翌年の生育に影響を及ぼすので, 注意が必要である。また, 初期生育が緩慢であるため, 播種当年における雑草との競合回避対策が重要である。その他の栽培法はアルファルファの栽培法に準じる。

試験場名	年間乾物収量(kg/10a)				3ヵ年合計の マキワカバ 比(%)	マメ科率(乾物中%)					試験年次
	1年目	2年目	3年目	合計		ガレガ				マキワカバ	
						1年目	2年目	3年目	合計	合計	
北農研	554	1001	1143	2704	79	13	15	21	17	76	1999～2001
根釧農試	73	490	414	976	52	12	13	26	18	52	
天北農試	87	973	838	1904	81	10	8	12	10	80	
全平均	238	821	798	1861	73	12	12	20	15	69	

注) 北農研および天北農試はチモシー「ノサップ」, 根釧農試は「キリタツ」との混播における総乾物収量。

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 18-20 (2002).

5. チモシー

- (1) **ホライズン**（系統名 SB-T-9502）2002年
登録番号：（北海道）チモシー準北海道合第7号
（種苗法）第 号

セールスポイント

耐倒伏性がやや優れ、2番草が多収な早生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が、斑点病幼苗接種検定試験、栄養系評価試験および多交配後代検定試験を実施して9親栄養系を選抜し、合成品種法により育成した。1999年から各種試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性は、出穂始が「ノサップ」より2日早く「クンプウ」より6日遅い、早生である。出穂程度は、1番草と2番草が「ノサップ」より高く、3番草は「ノ

サップ」よりやや高い。

2. 収量性は、2,3年目の合計乾物収量が「ノサップ」よりやや多く、番草別では2番草が多い。
3. 越冬性は「ノサップ」並である。斑点病、すじ葉枯病に対する抵抗性は「ノサップ」並である。
4. 1番草の耐倒伏性は「ノサップ」よりやや優れる。
5. 草勢は、早春および秋ともに「ノサップ」並である。再生草勢は2番草が「ノサップ」並で、3番草が「ノサップ」よりやや劣る。
6. 草丈は2番草が「ノサップ」よりやや高く、1番草と3番草が「ノサップ」並である。
7. 混播適性は「ノサップ」並である。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は採草用として利用する。

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	乾物収量				試験年次
			1番草	2番草	3番草	年合計	
北見農試	ホライズン	6.12	101	124	86	106	1999～2001
	ノサップ	6.14	425	156	56	636	
天北農試	ホライズン	6.17	101	113	91	103	
	ノサップ	6.17	577	241	133	950	
根釧農試	ホライズン	6.19	94	120	—	103	
	ノサップ	6.21	624	335	—	958	
道立畜試 (新得)	ホライズン	6.14	106	119	106	109	
	ノサップ	6.16	575	284	212	1070	
道立畜試 (滝川)	ホライズン	6.9	102	107	113	105	
	ノサップ	6.10	734	359	265	1358	
北農研センター	ホライズン	6.12	100	127	97	103	
	ノサップ	6.13	519	85	130	733	
全場所平均	ホライズン	6.13	101	116	103	105	
	ノサップ	6.15	575	243	159	950	

注) 2,3年目の平均値。乾物収量の「ノサップ」は実数 (kg/10a) で、「ホライズン」は「ノサップ」対比(%)である。根釧農試は2回刈り。

参照 1)北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，21－22（2002）。

- (2) **シリウス**（系統名 SB-T-9504）2002年
登録番号：（北海道）チモシー準北海道合第8号
（種苗法）第 号

セールスポイント

斑点病抵抗性と混播適性がやや優れる晩生品種である。

来歴 本品種は、雪印種苗株式会社が斑点病幼苗接種検定試験、栄養系評価試験および多交配後代検定試験を実施して、6親栄養系を選抜して、合成品種法により育成した。1999年から各種試験を行い、2002年に優良品種となった。

特性概要

1. 早晚性は、出穂始が「ホクシュウ」と同じ、晩生である。出穂程度は1番草、2番草とも「ホクシュウ」よりやや高い。
2. 収量性は2,3年目の合計乾物収量が「ホクシュウ」並である。
3. 越冬性は「ホクシュウ」並で、斑点病に対する抵抗性は「ホクシュウ」よりやや優れる。
4. 耐倒伏性は「ホクシュウ」並である。
5. 草勢は早春が「ホクシュウ」並で、秋は「ホクシュウ」よりやや劣る。再生草勢は「ホクシュウ」並である。

6. 草丈は1番草、2番草とも「ホクシュウ」よりやや高い。
7. 混播適性は「ホクシュウ」よりやや優れる。

栽培適地と奨励態度

全道一円に適する。栽培利用上の注意は採草用として利用する。

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	年合計	
北 見 農 試	シ リ ウ ス	6.22	100	93	99	1999～2001
	ホ ク シ ュ ウ	6.24	663	168	830	
天 北 農 試	シ リ ウ ス	6.27	97	96	97	
	ホ ク シ ュ ウ	6.27	729	327	1056	
根 釧 農 試	シ リ ウ ス	6.30	96	99	97	
	ホ ク シ ュ ウ	6.28	636	348	983	
道 立 畜 試 (新 得)	シ リ ウ ス	6.26	96	92	95	
	ホ ク シ ュ ウ	6.26	746	373	1118	
道 立 畜 試 (滝 川)	シ リ ウ ス	6.22	102	103	102	
	ホ ク シ ュ ウ	6.20	950	478	1428	
北農研センター	シ リ ウ ス	6.22	99	95	98	
	ホ ク シ ュ ウ	6.24	662	197	859	
全 場 所 平 均	シ リ ウ ス	6.25	98	97	98	
	ホ ク シ ュ ウ	6.25	731	315	1046	

注) 2, 3 年目の平均値。乾物収量の「ホクシュウ」は実数 (kg/10a) で、「シリウス」は「ホクシュウ」対比(%)である。

参照 1)北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 23-24 (2002)。

(3) なつさかり (系統名 北見22号) 2004年

登録番号: (北海道) チモシー北海道合第9号
(農水省) チモシー農林合7号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

耐倒伏性と斑点病抵抗性が強く、混播適性がやや優れる晩生品種である。

来歴 本品種は、北海道立北見農業試験場において、晩生で、耐倒伏性、斑点病抵抗性及び混播適性に優れる多収品種の育成を目標に、北見農業試験場育成7品種・系統及び海外から導入した2品種に由来する9親栄養系による合成品種法により育成された。2001年から「北見22号」の系統名で各種の試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ホクシュウ」より1～5日遅い6月24日～7月5日で、晩生に属する。
2. 2年間または3年間の合計乾物収量は「ホクシュウ」よりやや多く、年次別、番草別の乾物収量も同程度かやや多いことから、収量性は同程度かやや優れる。
3. 耐倒伏性および斑点病抵抗性は「ホクシュウ」より優れる。
4. シロクローバとの混播栽培で利用すると合計乾物収量が「ホクシュウ」より多く、マメ科率は同程度で、混播適性はやや良好である。
5. 越冬性は「ホクシュウ」と同程度、耐寒性は「ホクシュウ」と同じ“強”である。
6. 放牧適性、推定TDN含有率、採種量は「ホクシュウ」と同程度である。
7. 形態的特性は、草丈が1番草、2番草とも「ホクシュウ」よりやや劣る。再生草勢は「ホクシュウ」並である。

ウ」より高く、穂長、葉長が長く、葉幅は広く、茎が太く、茎数密度が低い。

栽培適地と奨励態度

北海道に適し、「ホクシュウ」と置き換える。栽培上の注意は、晩生品種として、年間2回の採草利用を主体とし、放牧にも利用できる。

試験場所名	品種名	出穂始 (月.日)	乾物収量			試験年次
			1 番草	2 番草	年合計	
北 見 農 試	なつさかり ホクシュウ	6.29	103	106	104	2001～2003
		6.28	889	246	1134	
天 北 農 試	なつさかり ホクシュウ	6.26	100	104	101	
		6.21	781	231	1012	
根 釧 農 試	なつさかり ホクシュウ	7. 5	107	96	103	
		7. 4	573	308	881	
道 立 畜 試	なつさかり ホクシュウ	6.24	102	101	102	
		6.21	829	288	1117	
北 農 研 セ ン タ ー	なつさかり ホクシュウ	6.27	100	109	101	
		6.25	931	187	1118	
家畜改良センター 十 勝 牧 場	なつさかり ホクシュウ	7. 1	105	107	105	
		6.27	656	261	917	
家畜改良センター 新 冠 牧 場	なつさかり ホクシュウ	6.27	100	103	100	
		6.26	764	205	969	
全 場 所 平 均	なつさかり ホクシュウ	6.28	102	103	102	
		6.26	775	247	1021	

注) 2, 3 年目の平均値。乾物収量の「ホクシュウ」は実数 (kg/10a) で、「なつさかり」は「ホクシュウ」対比(%)である。

参照 1)北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 17-19 (2004)。

6. オーチャドグラス

(1) ハルジマン (系統名 北海26号) 2001年

登録番号: (北海道)オーチャドグラス北海道合8号
(農水省)オーチャドグラス農林合9号
(種苗法)第12215号

セールスポイント

耐病性, 収量性に優れる中生品種である。

来歴 本品種は、農林水産省北海道農業試験場が北海道および東北北部の寒冷地に適する耐病性, 多収性などに優れる中生品種の育成を目標に, 選抜栄養系の評価試験から7栄養系を選び合成した品種である。1997年から「北海26号」の系統名で各種の試験を行い, 2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「オカミドリ」と同じで中生の晩に属する。
2. 越冬性は「オカミドリ」と同程度で, 春の草勢は

「オカミドリ」よりやや優れる。雪腐大粒菌核病抵抗性は「オカミドリ」より優れ強であるが, 耐寒性は「オカミドリ」と同程度かやや劣る。

3. 乾物収量は「オカミドリ」と同程度かやや多収で, 1番草の収量は「オカミドリ」より多い。
4. 多刈刈の収量は「オカミドリ」と同程度かやや優れる。
5. 耐病性は, すじ葉枯病, 雲形病, 黒さび病には「オカミドリ」より優れ, 葉枯れ性病害に抵抗性を示す。
6. 耐倒伏性は強いが, 「オカミドリ」よりやや劣る。
7. 放牧適性は「オカミドリ」と同程度である。
8. 混播適性は「オカミドリ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度

北海道全域および東北北部に適する。栽培利用上の注意は採草および放牧に利用できる。北海道東部では冬枯れの発生に注意する。

品種名	1～4年目の合計乾物収量						すじ葉枯病	試験年次
	北海道農試	天北農試	畜試	北見農試	根釧農試	5場所平均	5場所平均	
ハルジマン	104	102	99	104	102	102	3.2	1997～2000
オカミドリ	3243	3167	3523	2989	3509	3286	3.8	
ホクト	102	104	101	98	99	101	4.2	

注1) 乾物収量は「オカミドリ」が実数(kg/10a)で、その他は「オカミドリ」対比(%)である。

注2) すじ葉枯病は1:極微～9:極甚。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成13年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-36 (2001).
2) 山田敏彦 等, 北海道農研研報, 177, 15-36(2002).

(2) バッカス (系統名 SB-O-9504) 2002年
登録番号:(北海道) オーチャドグラス準北海道
合11号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

収量性, 耐病性に優れる晩生品種である。

来歴 本品種は, 雪印種苗株式会社が北海道に適する収量性, 耐病性に優れる晩生品種の育成を目標に, 栄養系試験および後代検定から選抜した8栄養系の組み合わせによる合成品種である。1999年から「SB-O-9504」の系統名で各種の試験を行い, 2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「オカミドリ」より2日遅く晩生に属する。
2. 乾物収量は「オカミドリ」よりやや多い。番草別にみると1, 2番草では「オカミドリ」より多い。年次による収量の低下は「オカミドリ」より少ない。
3. 越冬性, 早春の草勢は「オカミドリ」と同程度である。
4. 耐病性は, すじ葉枯病, 黒さび病に「オカミドリ」より優れる。
5. 耐倒伏性は「オカミドリ」と同程度である。
6. 混播適性はクローバとの競合力が「オカミドリ」と同程度かやや強い。

栽培適地と奨励態度

北海道全域に適する。栽培利用上の注意は採草用として利用する。

品種名	2～3年目の合計乾物収量							すじ葉枯病	試験年次
	北海道農試	天北農試	畜試	滝川試験地	北見農試	根釧農試	6場所平均	6場所平均	
SB-O-9504	103	103	102	102	108	106	104	3.1	1999～2001
オカミドリ	2204	2073	1906	2222	1135	1481	1837	3.8	
グローラス	94	98	99	94	101	95	96	4.3	

注1) 乾物収量は「オカミドリ」が実数(kg/10a)で、その他は「オカミドリ」対比(%)である。

2) すじ葉枯病は1:極微～9:極甚。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 25-26 (2002).

7. メドウフェスク

(1) ハルサカエ (系統名 北海12号) 1999年
登録番号:(北海道) メドウフェスク北海道合2号
(農水省) メドウフェスク農林合2号
(種苗法) 第10639号

セールスポイント

越冬性, 収量性および混播適性に優れる早生品種である。

来歴 本品種は, 農林水産省北海道農業試験場が寒地・寒冷地に適する収量性, 越冬性および混播適性に優れる品種の育成を目標に, 「日高エコタイプ」, 「Leto」, 「Salten」, 「Tammisto」, 「Boris」に由来する8栄養系による合成品種法により育成された。1995年から「北海12号」の系統名で各種の試験を行い, 1999年に優良品種と

なった。

特性概要

1. 出穂始は「トモサカエ」より2日遅く早生に属する。
2. 乾物収量は少回刈収量では「トモサカエ」に比べ道東で優れ、多雪地帯では同等である。多回刈収量では「トモサカエ」に比べ道央で優れ、道東では同程度である。
3. 季節生産性は「トモサカエ」に比べ、1番草は高く、2番草は同程度、3番草はやや低い。
4. 永続性は「トモサカエ」と同程度である。
5. 越冬性、早春草勢は「トモサカエ」より優れる。耐寒性は「トモサカエ」と同程度で、耐凍性、耐雪性は

優れる。

6. 網斑病抵抗性は「トモサカエ」と同程度である。
7. 混播適性はシロクローバ、アカクローバとの混播で「トモサカエ」より競合力が優れる。
8. 放牧適性は「トモサカエ」と同程度である。
9. 耐倒伏性は「トモサカエ」よりやや優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道全域および本州中部以北の高冷地に適する。栽培利用上の注意は採草および放牧用として利用する。道東の冬枯れの著しいところでは、秋季の強度な放牧は避ける。

品種名	1～4年目の合計乾物収量						越冬性	試験年次
	北海道農試	天北農試	畜試	北見農試	根釧農試	場所平均	6場所平均	
ハルサカエ	100	101	102	108	105	103	6.5	1995～1998
トモサカエ	2467	3206	2652	2767	3818	2982	4.8	
タミスト	82	90	94	95	96	91	4.8	

注1) 乾物収量は「トモサカエ」が実数(kg/10a)で、その他は「トモサカエ」対比(%)である。

注2) 越冬性は1:極不良～9:極良。

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成11年普及奨励ならびに指導参考事項, 26-28 (1999).
2) 高井智之 等, 北海道農試研報. 173, 47-62(2001).

(2) プラデール (系統名PRADEL) 2002年

登録番号:(北海道)メドウフェスク準輪第8号

セールスポイント

放牧用で収量性、特に夏及び秋の季節生産性に優れる早生品種である。

来歴 本品種は、スイスの育成機関RACがスイス在来種を用い収量性、永続性、各種耐病性の改良を目標に、循環選抜法で育成した。1999年から「PRADEL」の系統名で各種の試験を行い、2001年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ハルサカエ」より3日早く、「トモサカエ」より1日早く、早生に属する。

2. 乾物収量は「ハルサカエ」よりやや多い。
3. 季節生産性は、春の収量は「ハルサカエ」並であるが、夏および秋は「ハルサカエ」より多い。
4. 越冬性は「ハルサカエ」並かやや劣り、「トモサカエ」よりやや優れる。
5. 網斑病抵抗性は「ハルサカエ」並である。
6. 永続性は「ハルサカエ」と同程度で「トモサカエ」よりやや優れる。
7. 出穂程度は「ハルサカエ」よりやや少ない。
8. 混播適性は「ハルサカエ」並である。

栽培適地と奨励態度

道東地域に適する。栽培利用上の注意は放牧用として利用する。

品 種 名	2 ～ 3 年目の合計乾物収量				2 か年時期別平均乾物			試験年次
	根 釧	北 見	畜 試	3 場 平均	収 量（3 場平均）			
					春 期	夏 期	秋 期	
プ ラ デ ー ル	109	106	102	105	100	105	111	1999～2001
ハ ル サ カ エ	815	826	1328	990	332	459	200	
ト モ サ カ エ	106	97	96	99	98	100	99	

注1) 乾物収量は「ハルサカエ」が実数(kg/10a)で、その他は「ハルサカエ」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成14年普及奨励ならびに指導参考事項, 27-28 (2002).

8. ペレニアルライグラス

(1) ポコロ (系統名 天北2号) 1999年

登録番号: (北海道)

ペレニアルライグラス北海道合第1号
(種苗法) 第10383号

セールスポイント

旺盛な秋の生育を保持しつつ、春の生育が良好であり、早春からの放牧利用が可能である。

来歴 本品種は、北海道立天北農業試験場において、道内の土壤凍結のない地域を対象に、収量性、越冬性および永続性に優れた晩生品種の育成を目標に、我が国および海外の4品種由来の5栄養系による合成品種法により育成された。1995年から「天北2号」の系統名で各種試験を行い、1999年に優良品種となった。

特性概要

1. 出穂始は「ファントム」より2～3日遅く、「フレ

ンド」より4～5日早い晩生に属する。

2. 乾物収量は「フレンド」より多収で、永続性はやや優る。季節生産性は、春季では優り、夏・秋季ではやや優る。

3. 耐雪性、耐寒性は「フレンド」と同程度で、各種雪腐病に対する抵抗性は同程度からやや優る。萌芽および早春の生育は良好で、総合的な越冬性はやや優れる。

4. 冠さび病、網斑病、斑点病など葉枯性病害に対する抵抗性は「フレンド」並みである。

5. 放牧適性、1番草を採草する兼用利用適性は「フレンド」と同程度である。

6. シロクロバとの混播条件では乾物収量が「フレンド」よりやや多く、シロクロバ率の変動も小さく、混播適性は優る。

栽培適地と奨励態度

土壤凍結のない地帯に適する。放牧利用とするが、1番草は採草も可能である。

試験場名	乾物収量				季節別CGR（2～4年目平均）						試験年次
	2～4年目		4年目		春季		夏季		秋季		
	ポコロ	フレンド	ポコロ	フレンド	ポコロ	フレンド	ポコロ	フレンド	ポコロ	フレンド	
天北農試	106	1706	105	547	109	31.2	103	37.8	103	23.4	1995～1998
滝川畜試	108	2127	105	818	109	44.2	107	37.7	106	30.0	
北 農 試	103	2326	104	787	108	54.9	100	38.6	99	36.7	
3 場平均	105	2053	104	717	109	43.4	103	38.0	103	30.0	

注) 乾物収量の成績は「フレンド」が実数(kg/10a)で、「ポコロ」は「フレンド」対比(%)である。

季節別CGRの成績は「フレンド」が実数(kg/10a/10日)で、「ポコロ」は「フレンド」対比(%)である。

参照 1) 北海道農政部編, 平成11年普及奨励ならびに指導参考事項, 23-25 (1999).

2) 佐藤尚親 等. 北海道立農試集報. 82, 57-66(2002).